

2023年2月28日

2022年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

母乳育児支援の資格を持つ助産師が大切にしていることと

支援の実際

What Do Certified Midwifery Lactation Consultants Value When
Providing Lactation Care and What Type of Support Do They
Provide: A Qualitative Study

21MW010

寺田 静

要旨

1. 目的

本研究の目的は、母乳育児支援の資格を持つ助産師へのインタビューを通して、母乳育児支援で大切にしていること、支援の実際、遭遇する困難、困難への対処を明らかにすることである。

2. 方法

研究デザインは質的記述研究を用いた。研究対象者は、母乳育児支援に関する資格認定を持ち産褥0日目から退院までの母乳育児支援の経験がある者とし、それぞれ約60分の半構造化面接を実施した。インタビュー内容の逐語録を作成し、質的内容分析を行い、内容ごとにコード化、サブカテゴリー化、カテゴリー化を行った。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：22-A051）を受けて実施した。

3. 結果

研究対象者は、病院、クリニックで勤務し、IBCLC、BSケア、すいな法の資格を取得する助産師3名であった。インタビューより、母乳育児支援の資格を持つ助産師の「母乳育児支援で大切にしていること」として、【母乳育児の主体である母親の意向を尊重した関り】、【母親が自分の生活に合った方法を選択し、楽しく育児ができること】など6個のカテゴリーが抽出された。「母乳育児支援の実際」として、【母乳育児に明確な意思がない母親には情報提供と見通しの話をして母親のやりたい度合いに合わせたケアをする】など8個のカテゴリーが抽出された。「母乳育児支援で遭遇する困難」として、【「出ればやりたい」と考えている母親への母乳育児の事実を伝えつつもやる気にさせる情報の伝え方や支援方法が難しい】、【自分だけに関わるのが難しく、継続した支援にならない】など12個のカテゴリーが抽出された。「母乳育児支援で遭遇する困難への対処」として、【助産師のケアを統一するための教育を行う】、【困難に遭遇した際に仲間と助け合う】など7個のカテゴリーが抽出された。

4. 結論

本研究の結果から、母乳育児支援の資格を持つ助産師は、母親中心の母乳育児支援を実践し、母親の自分に合った授乳のスタイルの意思決定支援とそれに寄り添う柔軟なケアを実践していることが明らかになった。そして、多くの困難を感じながらも、助産師間の母乳育児支援の統一を目指すために、自分自身がロールモデルとなるような支援の実践と助産師の教育を積極的に行うことで、より良い母乳育児支援の実現に取り組んでいることが明らかになった。今後は、母親の児の栄養方法に関する意思決定を支援するためのガイドの作成や、分娩期から始める母乳育児の継続に繋がるような優しい支援の検討、助産師間の母乳育児支援の統一が難しいという現状がある中で実施可能な助産師への教育方法に関する検討を進める必要があると考えられた。